

EX・DXの一体推進による未来創造

三菱商事は、カーボンニュートラル社会の実現に向け、EXとDXを推進しています。今回は、地域課題の解決を通じた魅力ある街づくりにつながる取り組みを紹介します。

秋田県能代市、三種町
及び男鹿市沖

秋田県由利本荘市沖

千葉県銚子市沖

EX 洋上風力発電

低・脱炭素社会の実現に不可欠な再生可能エネルギー（再エネ）の普及。その切り札として期待されるのが洋上風力発電です。

秋田県・千葉県沖の洋上風力発電事業者を選定

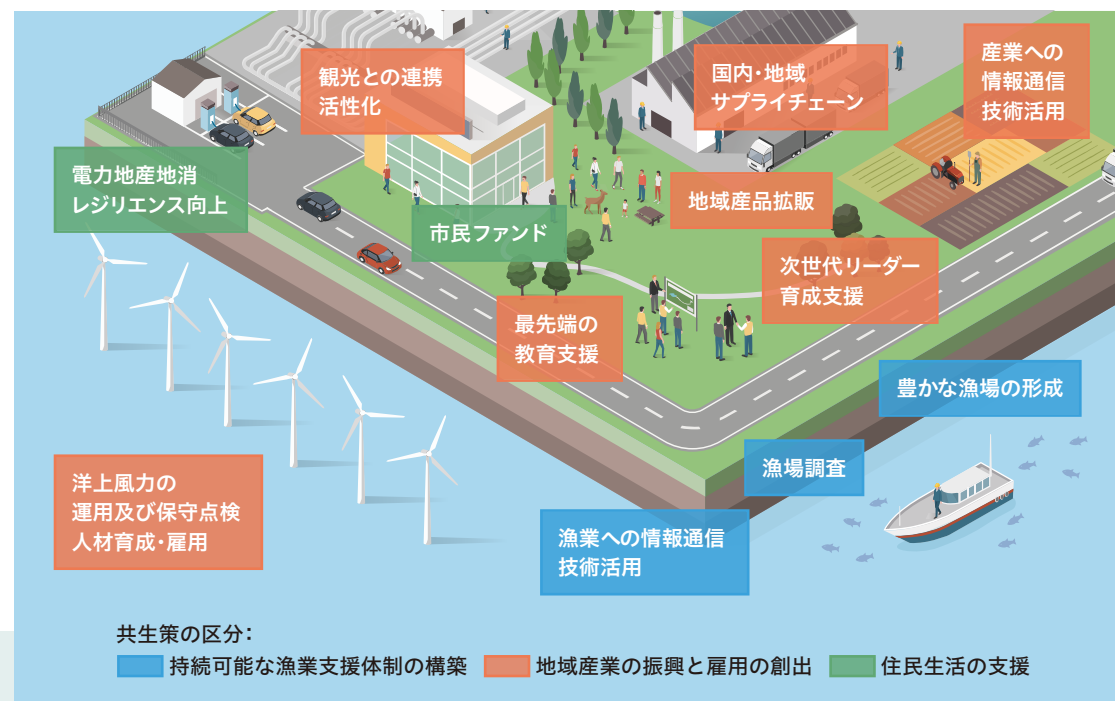
三菱商事と、グループ会社の三菱商事エネルギーソリューションズ、そして中部電力子会社のシーテックなどにつくる企業連合は昨年12月、秋田県沖と千葉県沖の三つの海域で洋上風力発電を担う事業者を選定されました。

本事業では、今後、秋田県能代市、三種町及び男鹿市沖で38基、同県由利本荘市沖で65基、千葉県銚子市沖で31基の計約170万kWを開発^{*}。2028～30年から順次運転を開始する予定です。

^{*}当社は、2030年までに再エネ発電事業の持分容量を現状の330万kWから660万kWへ倍増することを目指します。

地域との
共生を
目指して

由利本荘市沖の事業には風力発電を手掛ける地元企業ウェンティ・ジャパンが加わります。また、米国Amazon.comやNTTアノードエナジー、麒麟ホールディングスと共同で全事業地域において地域共生策を実施。三菱商事グループは、地域との共生を図りながら、エネルギーの安定供給と低・脱炭素の両立の実現に貢献していきます。



DX スマートシティ & モビリティ・サービス

三菱商事は、地域における生活の利便性向上、環境負荷低減に貢献するスマートシティ開発やモビリティ・サービス事業に取り組んでいます。

デジタル技術活用で地域振興へ

本年2月、熊本県八代市と、三菱商事、グループ企業であるホームサーブは、デジタル技術を活用した地域振興に関する連携協定を締結しました。今後、エネルギー地産地消化の推進による災害に強い街づくりや、デジタル技術を活用した自治体・民間データの連携による市民サービスの向上など、「安全・安心で、持続的に発展するまち“スマートシティやつしろ”」の実現を推進していきます。本協定に基づく取り組みの第一歩として、地域ポータルの実証実験と、定額制の水回り修理サービスの提供が開始されました。

三菱商事が手掛ける地域ポータルの実証実験では、従来紙の回覧版で通知していた町内会や市の情報を携帯電話やスマートフォンで閲覧・配信できるようにする他、安否確認等も可能に。市民の皆様が必要とする情報の集約化を図ります。ペーパーレス化、事務手続きの効率化等を実現し、将来的な市民サービスの質向上を目指して、データ連携についても協議を進めていきます。



地域ポータルの画面(イメージ)

スマートシティ運営に向けた自動運転実証実験を開始

本年5月、三菱商事は、インドネシア・ジャカルタ郊外にあるBSD Cityにおいて、同国の有力不動産開発企業Sinar Mas Land (SML)と共に、電気自動車の自動運転実証実験を開始しました。実験では、中心部周辺を電気自動運転車両が周回し、そのニーズ等を検証します。三菱商事はSMLと、同地区の都市価値向上を目指す基本合意書を締結しており、都市全体のスマートシティ化を推進すべく、BSD City全体のデータ連携基盤の構築やデジタルマーケティング等にも取り組んでいきます。



現在の人口は約35万人、BSD Cityは山手線の内側と同等の約6,000haの面積を持つ。2050年の予想人口は約300万人

福岡空港で大型自動運転バスの実証実験を開始



いすゞ自動車製大型自動運転バス。定員は79名

三菱商事、いすゞ自動車、西日本鉄道は、本年3月より福岡国際空港が運営する福岡空港において、いすゞ製大型バスでの自動運転の共同実証実験を開始しました。国際線・国内線ターミナル間の一部区間を大型自動運転バスが走行します。実証を通じ、運用・サービスに関する課題点を洗い出し、ドライバー不足の解決策として期待される自動運転の実用化に向けて検討を進めていきます。